

12月28日(月曜日)「復活の幸い」

【新改訳 2017】

黙示録 20・1-6

「この第一の復活にあずかる者は幸いな者、聖なる者である。この人々に対しては、第二の死は、なんの力も持っていない。彼らは神とキリストとの祭司となり、キリストとともに、千年の間王となる。」(6節)

ここには、ふつうの人生観や常識では考えられないことが記されています。「第一の復活」とか「第二の死」とかがそれです。

今日、終末論がいろいろな分野から関心を引いていますが、黙示録の大部分は世の終わりと新しい御国のことが記されているユニークな書です。第一の復活は、主イエスが再臨されて、千年の間治める王国があるのですが、その千年王国が始まる前に起こると言われます。第二の復活は千年王国の後の、最後の審判の時と考えられます。第二の死は、最後のさばきによって、罪の刑罰として与えられる永遠の死です。

先にキリストが死からよみがえられたように、信仰者も終わ

りの日に復活するのです(1コリント 15 章)。なんとという希望ではありませんか。

～祈り～

主よ。罪のゆえに肉体の死は避けられませんが、あなたの御救いにより、復活の希望があることを感謝します。多くの人がこの希望にあずかることができますように。

【学びのために】

いわゆる終末論(エスカトロギー)には、難しい面があります。千年王国説にも、いくつかの違った考え方がありますが、ここに紹介した説は、ふつう、聖書信仰(福音主義)の立場を代表するものです。